

2023年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年2月6日

上場会社名 東和ハイシステム株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4172 URL <https://www.towa-hi-sys.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 石井 滋久
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部部长 (氏名) 児玉 祐輔 (TEL) 086-243-3003
 四半期報告書提出予定日 2023年2月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 2月7日開催予定

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第1四半期の業績 (2022年10月1日~2022年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第1四半期	687	33.3	183	140.0	185	142.2	124	160.0
2022年9月期第1四半期	515	△0.9	76	△41.4	76	△19.8	47	△25.4

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第1四半期	55.97	—
2022年9月期第1四半期	21.53	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第1四半期	4,116	3,636	88.3
2022年9月期	4,045	3,589	88.7

(参考) 自己資本 2023年9月期第1四半期 3,636百万円 2022年9月期 3,589百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	35.00	—	43.00	78.00
2023年9月期	—				
2023年9月期(予想)		0.00	—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年9月期の業績予想 (2022年10月1日~2023年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,298	1.8	344	△4.4	357	△3.4	249	0.3	112.18
通期	2,331	5.2	343	△17.5	378	△20.4	264	△16.3	118.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年9月期1Q	2,228,000株	2022年9月期	2,228,000株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2023年9月期1Q	一株	2022年9月期	一株
------------	----	----------	----

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年9月期1Q	2,228,000株	2022年9月期1Q	2,228,000株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的状況 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、足元で感染の再拡大は見られたものの、2020年以降の新型コロナウイルス問題は収束方向にあり、それを受けた個人消費の一部では持ち直しの動きがみられました。一方で、ウクライナ情勢のさらなる緊迫化や原材料・エネルギー価格の高騰、円安進行による物価の高騰等、依然として個人消費の低迷や企業収益の悪化が懸念される不透明な状況が続いております。

歯科医療業界におきましても、長引くコロナの影響、さらに電気料金の値上げ、歯科用貴金属等の高騰により不透明な状況が継続しております。2021年10月20日に運用が開始されたオンライン資格確認等システムについて政府主導による議論が大きく進み、2022年8月10日、中央社会保険医療協議会（中医協）により2023年4月からマイナンバーカードによるオンライン資格確認等システムの導入を原則として義務づける療養担当規則の改正案を答申、さらに2022年10月13日、政府により2024年秋にも現在使われている健康保険証の廃止を発表するなど駆け込み需要が見込まれる状況にあります。2023年1月4日現在、マイナンバーカードの申請件数は約8,300万件と運転免許証の交付数を超過しており、さらに普及が進むことで歯科医療業界のDXも加速するものと考えられます。

そのような中、当社は2022年2月15日に音声認識対応の歯科医院向け電子カルテシステムの協創開始を発表、その後、複数のモニター医院での稼働結果を詳細にヒアリングした上で、随時、改善改良を重ね、このたび業界初となるAI・音声電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit AI-Voice」の販売を3月上旬から開始することとなりました。本システムは、当社の歯科医院向け電子カルテシステムと日立のAI音声認識技術および「Recware」の音声テキスト化機能を連携・融合することで、歯科医が診療中に手袋を外さず音声だけで電子カルテを作成・操作することを実現します。また、スマートグラスを装着しますと、視線を少し動かすだけで120インチサイズ相当の大画面を通じて電子カルテの内容確認が可能となります。例えば、歯周病検査においては、歯科衛生士が検査をしながら音声入力での検査結果を記録できるようになり、これまで2人で行っていた歯周病検査が1人で行えます。さらに患者様との会話の記録も音声データで電子カルテに保存できます。

歯科業界において、音声による電子カルテ入力や画面操作は業界初となり、歯科医、歯科衛生士の業務が大幅に効率化され、短縮した業務時間を患者様とのコミュニケーションに費やすことで患者様の満足度向上に繋げ、院内業務のDX（デジタルトランスフォーメーション）実現を支援いたします。

当社の事業理念でもあります「サポート無くして販売なし、お客様の笑顔お客様の満足が私たちの喜び、顔が見え、心が触れ合う」を推進し、「親しまれ・愛され・信頼されるサポート」をモットーに、これら一連の活動を、主力商品である電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit XR-10i」販売へと繋げてまいりました結果、当第1四半期累計期間の売上高は687,752千円(前年同期比33.3%増)、営業利益は183,294千円(前年同期比140.0%増)、経常利益は185,809千円(前年同期比142.2%増)、四半期純利益は124,691千円(前年同期比160.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における総資産は4,116,849千円となり、前事業年度末と比較して71,095千円増加いたしました。

a. 流動資産

流動資産は2,295,857千円となり、前事業年度末より35,136千円増加いたしました。主な内訳は、現金及び預金の増加25,497千円と、売掛金の増加92,804千円、商品の減少85,809千円であります。

b. 固定資産

固定資産は1,820,991千円となり、前事業年度末より35,959千円増加いたしました。主な内訳は、ソフトウェア仮勘定の増加33,000千円、投資有価証券の増加25,210千円、繰延税金資産の減少16,464千円であります。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債は480,631千円となり、前事業年度末と比較して24,677千円増加いたしました。

a. 流動負債

流動負債は434,196千円となり、前事業年度末より25,779千円増加いたしました。主な内訳は、未払金が14,972千円、預り金が23,280千円増加した一方で、未払法人税等が28,783千円、賞与引当金が11,119千円減少したことによるものであります。

b. 固定負債

固定負債は46,434千円となり、前事業年度末に比べて大きな増減はありませんでした。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は3,636,217千円となり、前事業年度末と比較して46,418千円増加いたしました。前事業年度に係る配当金の支払いが95,804千円生じた一方、四半期純利益を124,691千円計上したことにより利益剰余金が28,887千円増加、その他有価証券評価差額金が17,531千円増加したことによるものであります。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期累計期間の研究開発費の総額は、20,178千円であります。なお、当第1四半期累計期間において当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第1四半期累計期間において、当社の経営成績に重要な影響を与える要因について、重要な変更はありません。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の業績予想につきましては、2022年11月11日に「2022年9月期決算短信[日本基準] (非連結)」にて公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

当第1四半期累計期間ではオンライン資格確認等システムの駆け込み需要が業績に大きく寄与いたしました。2023年4月からのオンライン資格確認等システム原則義務化に向けた導入が一巡したことにより、オンライン資格確認等システムの売上は減少していくものと考えております。一方で、AI・音声電子カルテを日本デンタルショーや新聞で広告掲載したところ、販売エリア外の医院様から多くの問い合わせをいただきました。そこで、AI・音声電子カルテ統合システム「Hi Dental Spirit AI-Voice」の販売開始を起点に人財増強による営業基盤の拡充やそれに伴う販売エリアを拡大し、そういった皆様方への期待にも応えることでさらなる売上拡大に繋げてまいりたいと考えております。そして、今後は、音声で自費治療見積の作成やレントゲン画像の呼び出しなどさらに進化させ、歯科DXの夢、実現に邁進してまいりたいと考えております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,798,580	1,824,078
売掛金	143,627	236,431
商品	236,743	150,934
前払費用	35,485	38,826
未収入金	1,665	710
預け金	44,618	44,618
その他	—	259
流動資産合計	2,260,720	2,295,857
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	339,997	335,644
構築物（純額）	2,330	2,284
車両運搬具（純額）	14,693	13,469
工具、器具及び備品（純額）	26,730	31,715
土地	349,929	349,929
有形固定資産合計	733,681	733,044
無形固定資産		
ソフトウェア	82,206	76,889
ソフトウェア仮勘定	46,538	79,538
その他	2,122	2,096
無形固定資産合計	130,867	158,524
投資その他の資産		
投資有価証券	854,460	879,670
敷金及び保証金	33,156	33,353
繰延税金資産	31,332	14,868
その他	1,533	1,530
投資その他の資産合計	920,482	929,422
固定資産合計	1,785,032	1,820,991
資産合計	4,045,753	4,116,849

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	52,901	62,469
未払金	215,511	230,484
未払法人税等	85,714	56,930
未払消費税等	12,264	46,466
預り金	6,220	29,501
賞与引当金	11,119	—
その他	24,685	8,344
流動負債合計	408,417	434,196
固定負債		
退職給付引当金	47,536	46,434
固定負債合計	47,536	46,434
負債合計	455,953	480,631
純資産の部		
株主資本		
資本金	343,080	343,080
資本剰余金	297,480	297,480
利益剰余金	2,955,957	2,984,844
株主資本合計	3,596,517	3,625,404
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△6,717	10,813
評価・換算差額等合計	△6,717	10,813
純資産合計	3,589,799	3,636,217
負債純資産合計	4,045,753	4,116,849

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
売上高	515,995	687,752
売上原価	139,782	202,575
売上総利益	376,212	485,177
販売費及び一般管理費	299,834	301,882
営業利益	76,378	183,294
営業外収益		
受取利息	0	0
有価証券利息	—	2,172
受取手数料	150	150
受取地代家賃	184	—
その他	16	192
営業外収益合計	350	2,515
経常利益	76,728	185,809
特別利益		
固定資産売却益	3,517	—
特別利益合計	3,517	—
税引前四半期純利益	80,246	185,809
法人税、住民税及び事業税	18,760	52,333
法人税等調整額	13,525	8,785
法人税等合計	32,286	61,118
四半期純利益	47,960	124,691

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する仮定及び会計上の見積りについて、重要な変更はありません。